

学校関係者評価（第1回 令和3年6月9日、第2回 令和3年10月21日、第3回 令和4年2月8日）
意見・要望・評価等

第1回学校運営協議会

①不審者対策について

意見1：池田小学校事件から20年が経ち、改めて必要と感じたことは不審者対策等についてである。新型コロナウイルス感染症や防災対策に加え、防犯についても取り組み児童生徒を守っていただきたい。

⇒昨年度防犯カメラは新しくなり、画像も鮮明になった。

職員での不審者対応訓練は実施している。今後も職員研修や訓練を実施していきたい。

②関係職員のコロナ対策の連携について

意見2：放課後等デイサービスでは、様々な特別支援学校の児童生徒たちが一緒になるため、コロナ感染症対策が重要である。県立特別支援学校でコロナ感染が発生した場合に、学校から放課後等デイサービスには情報が入ってこない。事業所でのコロナ対策が遅れてしまう傾向がある。このことについては以前に県にも伝えたが、児童生徒の安全な生活のためにも、関係機関等への必要な情報提供について検討していただきたい。

⇒コロナ感染についての情報共有のスピード感については、学校間でも様々である。コロナ感染症対策では抜けないということが非常に大切なことである。学校で得た情報で、対象となる児童生徒の安全にかかわることについては、積極的に情報共有していきたい。

③個別の教育支援計画等について

意見3：「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の立案時期は5、6月かと思われるが、進級する際に完成していれば、年度初めの指導がスムーズに進むと思う。

⇒現在の作成スケジュールでは、前年度に当時の担任が次年度に向けた「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の案を作成している。そして、新担任がその案を引き継ぎ、新たに課題・内容を整理し直した上で、5月の懇談に保護者から了解のサインをいただくこととしている。

④現在の取組について

意見4：訪問教育の児童生徒も、オンラインを通して多くの児童生徒とかかわりがもてるとよい。

意見5：コロナ禍においても、学校は児童生徒の学校生活を充実させるために努力していることがよく分かった。児童生徒に対して教職員が温かく接し、コミュニケーションの力をつけるように取り組んでいる。学校を訪問した際に、児童生徒の頑張っている姿をよく見かけたが、そのような姿があるのは、日々の教職員のかかわりあつてのことだと思う。

意見6：教員がそれぞれの児童生徒を理解し個別に対応していることが、児童生徒の将来を考える支援となっている。一方で、生徒たちは学校卒業後にも将来について等、いろいろと悩むことがあると思うので、卒業の際には地域につながる支援をお願いしたい。

意見7：保護者が評価するのは「できた」等の結果部分が大きい。創意工夫をした教材作成や授業づくりなどのプロセス部分が評価されるとよい。学校としてもプロセスが評価されるような仕組みを作してほしい。

⇒教職員が「できるかできないか」、「正しいか正しくないか」だけで自己評価することも増えている。児童生徒の課題に対して、「自分はどう思っているのか」「どのように取り組みたいのか」が大切であり、我々もそのような部分を認めるようにしたい。

①感染症対策について

意見1：コロナ対応のサーキュレーター設置は良いと思った。だが、これから寒い時期に入ってくるとなかなか窓も開けづらくなっていく。冬場の換気対策はどのように考えているか。

⇒ 暖の取り方としてエアコンと床暖房。暖房機器を使うところでは加湿器を使用する。換気がスムーズにできているかについては購入したCO2濃度チェッカーを用いて対応していきたい。

意見2：学校の対策は、安全・安心で素晴らしく、学校の努力はすごいと思う。だが、例えばコロナ感染予防対策となると、家庭・家族の協力がとても大切である。保護者がコロナ感染者に関して正しく理解してやっていかないと、学校だけがリスクを抱えることになり、一生懸命やっている先生方に申し訳ない。

⇒ ご家庭の協力、コロナ対策における協力については、長良特別支援学校の保護者様の対応には、知り得る限り胸を張ってよいかと思う。コロナハラスメントは非常に難しい。県からのチラシをお渡ししているが、当校だけに限らず県全体として意識を高めていかなければいけない。

②非常変災時対応について

意見3：災害対策を学校だけが考えるのではなく、家庭で考えるよう保護者に提案していくことが大切なのではないか。

⇒ 避難については、PTAの通信「しゃべりっちながら」においても、家庭で何ができるか会員の中から情報発信をされたりもしている。一緒に取り組み、発信していくことが学校としての役割の一つである。

意見4：防災訓練を行っていただいているが、地域の一人として災害があつて駆け付けた場合に何ができるかを考えたとき、大変な現場でご指導いただくわけにはいかない。前知識があれば駆け付けたときに動くことができるのではないか。

⇒ 命を守る訓練を年に2回、ミニ命を守る訓練を10回実施している。その時の災害の状況に応じた対応をその場で願わせていただく。現段階で、地域の方をお願いできることについては詳しくは検討できていないので、今後の課題の一つにしていきたい。

⇒ 避難の様子を見ていただくことは、校内で映像を流すなどしてご覧いただける機会を設けることも考えていく。

意見5：地域の方が一生懸命、学校のために協力しようと言ってくれるのであれば、地域の方との訓練というものを実際にやっていけるよう是非お願いしたい。

③確かな教育実践について

意見6：就労支援事業所も就労に向けての訓練をしている。通うことが物理的にも体力的にも難しい方もオンラインを使って在宅訓練をされる人数が増えてきたのが最近の傾向であり、少しずつ増えてきている。

⇒ 職員の方も、在宅就労、ICTを使った演習といったことについてノウハウをこれから学んでいかなければならない。

意見7：PDCAサイクルは、非常に古い考え方。現場は日々流れており、日々変化している。児童生徒の成長も日々変わり環境も変わっている中で、あえて、PDCAサイクルでなくてもよいことがたくさんあるのではないか。プランがなければ動けないといった固定観念的な状態になってほしくはないとお願いしたい。

⇒ 計画してやってみてチェックするという流れでなく、まずはやってみること。その中で練っていくプランもある。全体の要素としてPDCAサイクルはあるが、工夫をしていかなければならない。

④体育施設解放について

意見8：時々長良医療センターの体育館を学校へお貸しすることはあるが、センターの敷地内には、学校のグラウンドのようなスペースはない。我々も発想を変えて、障害者病棟の患者様のいろんな行事や職員のレクリエーションでの借用を今後考えていき、学校のグラウンドで交流させてもらえるとよい。先程、災害時に地域の方たちとの話題が出たが、日頃から少しでも交流ができると、いざといった時の対応もスムーズにいくのではないか。

第3回学校運営協議会

①コロナ禍での学習活動の充実と拡充について

- 意見1：コロナ禍によってICT化が進まざるを得なかったことはよい点でもある。ICTは視覚と聴覚に訴えるものがほとんどである。触覚、味覚、嗅覚に訴えるようなかわりも指導の中に加えるように工夫できるとよい。
- 意見2：園芸店を営んでおり、ボランティアで出前講座のようなものが出来ればよいと考えている。児童生徒の作品を当方のような民間の場にも展示することで学校と地域をつなげていくことができるのではないかと考えている。
- 意見3：コロナ禍によって大きく制限されているが、子供たちにとって直接的な触れ合いは大変重要である。今後は感染対策を十分とった上で教育活動やPTA活動の中に、外部の人との直接的な触れ合いを取り入れていけるとよい。

②学校・保護者共催「ふれあいの日」について

- 意見4：来年に向けてはWeb開催と、学校に集まってできる活動の2本立てで行っていききたい。
- 意見5：外部の機関とオンラインでつなぎ、それぞれの取組の発表や合奏をするなど、一緒に何かを作り上げるような活動ができるとよい。
- 意見6：今後はゼロリスクで様々な活動を実施することが難しいことを保護者が理解する必要がある。学校はリスクをどこまで受け入れるかによって実施できる内容が異なることを保護者に周知し、コロナ対策と学習活動の整合性をとっていかなければならない。

③今年度の学校運営方針に関する取組報告 及び 来年度の基本方針について

- 意見7：安全・安心の確保やよりよい教育の実践について、その確実性というのは実践する人に対する信頼に基づくものであり、今後も保護者や外部と連携していく中で、人と人との信頼関係を大切にしていってほしい。
- 意見8：長良医療センターは学校との連携として、平常時における緊急事態発生時の対応や、災害時の避難場所及び医療の提供を行うこととしている。そのためにもコロナ禍ではあるが、学校側と病院スタッフが日々の教育活動や児童生徒の様子を共有できる取組（授業参観等）を実施してほしい。
- 意見9：日常の学校生活及び災害発生時における安全・安心への取組がよくわかった。このような事態が発生する確率は大変低いと思われるが、ゼロではないため引き続き対策を継続してほしい。
- 意見10：安全・安心の確保は、地域にどれだけ学校や児童生徒の様子を知られているかにかかっていると思われる。今後も学校の様子を地域に情報を発信していってほしい。